

千日回峰行 塩沼亮潤氏の本から 抜粋

5/26/2015

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

NHK の E テレの番組の一つに「SWITCH インタビュー 達人たち」というのがあります。毎回、達人 2 名による対談という形式の 1 時間番組です。その中に標題にあげました「塩沼亮潤」氏が登場したのです。(下記は NHK の HP での 2 名の紹介フレーズです)

地球最後の未踏地帯を単独踏破した探検家・角幡唯介と、千日回峰行という命がけの荒行を達成した僧侶・塩沼亮潤。極限状態を経験してきた 2 人による生と死をめぐる対話。

チベット奥地の峡谷で食糧が尽き野たれ死にしそうになったり、雪崩で生き埋めになったり、幾度も死に直面しながら探検を続けてきた角幡は、千日の間 1 日も休まず 48km の山道を往復する千日回峰行、9 日間飲まず食わず眠らずを貫く四無行などを達成してきた大阿闍梨のもとへ向かう。「過去の人生の映像が見える」臨死体験などをへて塩沼がたどり着いた境地とは？探検家と修行僧が、自然と己と対峙しながら見つめた「命の姿」とは

塩沼氏は、本年 47 歳(昭和 43 年生)。平成 3 年から 11 年にかけての 9 年間で、大峯千日回峰をなしとげた人で、吉野山金峯山寺 1300 年の歴史の中で二人目となりました。それだけ、つらい修行をされた人です。まさに「死の淵」を垣間見た人なのです。

著書の一冊「人生の歩き方」から、私の心に響いた言葉を抜粋してみました。

野に咲く一輪の花のように

野に咲く一輪の花。自分と同じように山の中で雨や風にもまれながら、どんなに厳しい環境の中でも人の心を和ませるきれいな花を咲かせていました。それに対し自分は、周りの人にとってどんな存在であっただろうかと、改めて顧みました。次々に訪れる試練に対し、ただそれに負けないようにという強さばかりで、大自然という、嘘偽りのない、ありのままの真実の素晴らしさを感じるというゆとりがなかったことに気がつきました。

日のあたらぬところで努力する

人生良いことも悪いことも半分半分、結果を求めず、結果は努力のあとについてくるものです。欲心をもたずに、今、なすべきことをなし、どんな困難なことでもさせていただくという謙虚な気持ちで努力することが肝心です。

なすべきことをなす

日常のどんな仕事にも受け身にならず、そしてあきらめず、攻めの心でコツコツと努力するほうがいいと思います。そうしていると、心がいつも潤っていて、とても充実した良い人生の流れになるはずです。

本当の強さとは

どんな勢いのある若木でも、大風が吹いたらボキッと折れてしまうことがあります。しかし、山の中で咲いているコスモスは、どんな大風が吹こうとも倒れません。私たちも強くしなやかに成長しなければならないと感じます。

心という畑を耕す

私たちの人生も、心という畑を耕し、良い心を成長させなければなりません。そして、人生の学びという肥料をたくさんやり、常にきれいな畑であり続けるために、必要のないものは捨てなければなりません。

同じペースで、同じ心で

歩いて一時間かかる山道は一時間かけて歩ないと駄目なんだということに気がつきました。急いで五十分で登ったとしても、疲れて十分休憩したら一時間になってしまう。急いだ分はだけ疲れが次の日にも残ってしまいます。人生、そうあせるものではない。「ぼちぼち」が大切なんだなあと思いました。

正しい道を歩むありがたさを感じて

人間として生を授かっている今、このときをととても幸せに感じます。

短いようで長い人生のなかでは、幸せなときもあれば、そうでないときもあります。つらいことや悲しいことがめぐりめぐってくると、「人生って一体なんだろう……」と、つい愚痴をこぼしてしまったり、涙してしまうときもあるのではないのでしょうか。

しかし、誰も答えてくれません。ただわかっていることは、気がついたときには、すでに自分の人生がはじまっていたということです。舞台やお芝居ならば、お稽古があり本番がありますが、人生というものは気がついたときにはすでに本番が始まっています。

流れに逆らわずに生きる

こんな幸せなことはありません。人生、良いことも悪いことも半分半分です。つらいことや苦しいことがあっても、心が正しければ必ず道は開きます。そしてまた、輝ける人ほど道は開きます。すべては、今の心しだいです。

終わりに

この本を読んでいる時、巻末のご本人のプロフィールをみると、現在仙台市秋保に「慈目寺(ジゲンジ)」という寺を建立され、そのご住職になっているとのことでした。そこは、私が講師として赴くセミナー会場の近くなのです。早速私はセミナー終了後、足を運んでみました。冬は相当に積雪のある地であるらしく、寺の板壁は建立されて間もないにも関わらず趣のある色になっていました。周りは山や畑地で修業するにはよいところですが、残念ながらご住職は遠地での法話ということでしたが、寺をお世話している人にいろいろと話を聞かせていただきました。心が和んだ
40 分間でした。以上